京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

本紙定價　一枚金二錢　一ヶ月前金三十錢　三ヶ月前金九十錢　六ヶ月前金一圓八十錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日（日刊）
廣告料　五號活字十七字詰一行金

發行兼編輯人　高木久一郎
印刷人　松久勝一郎
發行所　京城新報社
仁川支局　仁川宮町三丁目　電話二一一番
東京支局　東京市京橋區南佐柄木町七番地

京城新報

革命と吾人の覺悟

支那に於ける革命軍は頗る猖獗を極め、官軍爲に利を失ない、随て朝廷の無力を暴露し、各省の獨立宣言となり、識士の稱號となり、動亂殆んど其極に達し、事態愈々重大となれり。而かも列國は之を一國の内亂と認めて嚴正中立を守り、未だ干渉の手を下さず、是れ蓋し當然の行動にして、孰れの國家と雖も敢て其間に乘じて輕擧妄動を試み、之れが爲に燦爛の支那民族を敵となすが如きを演ずるものにあらざるなり。

支那の歴史を大觀せよ、古今を通じて全く種族の戰爭史にして、此種族たる一面より見れば政權を爭奪せんとせず、滿州族なる政黨と漢人族なる政黨と大戰爭したる結果、勝者が勝利を占めて、現今の滿州政府即ち清朝を形成したりし如く、五千年間の政治史は甲族乙族の戰爭と其交代とに過ぎざるもののあるを示すにあらずや、殊に支那にあつては往昔陳勝が叫びしが如く、王侯將相種あらず、一旦敗北すれば今日の帝王も明日は一庶民のみ、或は百年或は二百年の永き子孫相繼承せし皇室ありと雖も其性質を討究すれば、大領土を有すれば万乘の君たり小領土を有すれば百乘の君たるに過ぎず、支那民族が其種族的戰爭の餘り武力を以て他族を攻撃し以て政權を把握せんことに努むるも畢竟如上の史實によつて陶冶せられし思想の發現のみ敢て不可思議の事にあらざるなり。彼洪秀全を戴ける長髮賊の亂の如きも亦易姓革命を目的として起されしものなるは今尚世人の記憶に新らたなる所にして、爾來漢族の敵愾心は益々増長し機あらば爆發せんことを欲して止まず、終に今回の動亂を惹起せり。況んや清朝政治の頽弛は漢族をして乘ぜしむるの機會を速ならしめたるに於てをや。吾人は此見解よりして其滿族と漢族とを問はず今回の内亂に鑑み國情に適應すべき政治を布くの必要を自覺し、從つて動亂の終局は必らずや隣邦のために慶すべきもののあるを信ずると共に此時機に對する我帝國の態度は、支那民族固有の地域を保全するを以て目的とし、冷靜に第三者の地位を嚴守せんことを望まざるを得ず。

我政府今日迄の態度に徴すれば、政府の方針も亦吾人の希望せる所のものと相同じきやを疑はしむるも、頃日隣邦の國歩艱難なるを奇貨とし、野心を抱ける者、或は奇矯なる言論をなす者、又は革軍の捷利を熱望する者などの現はるゝあり、自然隣邦民族の感情を害ふに至ることなきを保せず。是は第三者國民の執るべき態度にあらず。吾人は此際我國民相戒めて輕卒なる擧動を愼み、官革兩者の孰れにも偏せず、唯内亂に由つて疲弊せんとする支那民族に同情し彼等をして早く平和の境に樂しますることを念とせんことを切望す。

○新刊紹介

△日本經濟新誌（第十卷三號）　松崎法學博士の「農村の維持」池田謙三氏の「國債償還に就て」河津暹博士の「内國産業保護と輸出貿易」若槻前大藏次官の「物價問題と財政」社說「物價騰貴防止策につきて」等本誌の要目にして何れも當今適切の問題に就て論じたるものなれば政治家經世家の一讀を要す（一冊郵税共十三錢東京市麹町飯田町七丁目日本經濟新誌社）

△衞生新報（百二十三號）　通俗的に衞生思想の涵養に努むるもの本誌の如きは他に求む可からず殊に家庭衞生に力を注ぎ趣味を添へたれば一家の主婦は之を讀みて益する所あるや勿論なり（一部金五錢東京日本橋區箔屋町衞生新報社）

外事一束

▲世凱　の參謀長と黎と講和談判を遂行し黎強硬の態度を變じ講和成らんか

▲講和　は革首領等共和說分割說の二派に分れ各省代表者武昌に裁決を試む

▲革軍　大都督黄興本營を漢陽に置き文武の權を統べ着々新政の施設に努む

▲奉天　廣東と同じく官革何れにも屬せず中立地帶たるべしと保安會議決す

▲武昌　城内の革命黨互に權力を爭ひ相敵視反目して頗る統一を缺く傾向有り

▲開城　後廣東市中革黨の入込む者三萬多くは之れ地方の土匪無頼徒無節制

▲元凱　袁世凱を推して中華合衆國大統領に擧げんと欲し袁回答に躊躇すと

▲英國　ア首相日清動亂に對しては自國民の保護以外大勢に干渉の意なしと

▲英帝　皇后と共にデザーの印度皇帝戴冠式に臨御の爲め出發巡洋艦四隻供奉

▲統一　黨首領前商務次官アンドリュボナーロウ氏に選定せられ人心鎭靜す

梁川庄八

第三十六回　小金井蘆洲演

今迄悄然として居た見物は此名乘を聞くと寂寞は破れた　甲「イヨー偉い方が飛入だわなア、仙臺の牢破りだとよ　乙「面白い事になつたぞ、イヨー御浪人様其確かり頼み申ますぜ」丙「御浪人様其の命を絶たうとしたでござりますから、鬼面山を投殺して下せいまし、峯太郎よ」丁「是非勝つてれくんなせゑよ」と異口同音に怒號する者ですから、鬼面山はます〳〵憤つて、四股を踏んで力を籠み出す、土俵はブク〳〵と云て、宛然惡鬼羅刹の容貌です、仕切りながら庄八の容子を見ると、左して肥滿はして居ないが、色白くして肉は堅く筋骨逞ましく、流石武藝で固めた身體だ岩疊な姿です、鬼面山は腰を立て兩手を下げて仕切る、梁川は相撲は今日が初めてだから仕切る方法は知らないから、只兩手をブラ下げて先方の容子を窺つて居る、行司は變な相撲だと、軍配を取直し、雙方を注目して　行「まだ〳〵まだよ」と聲を掛けて居る中に、ヤット鬼面山が立つた、梁川も待たなしだ土俵を蹴つて後へ下つて身構へる　行司は據ないから　行「ハッケヨイ」と勝負聲を掛ける、鬼面山は得意の鐵砲一本呉れば彼が腰が碎けて土俵を飛出すは必定と、自信が強いから立上りざま滿身の力を右の手に込めて、庄八の鳩尾を望んでドーンと突いて來た、總じて相撲取の力は、物を持つたり差したりする力量は左のみではないが、押したり受たりする力と云者は非常に強い者だ、まして房總に敵なしと迄云はれた、鬼面山の鐵砲を異常に請けて堪る者ではない、庄八は兼て習ひ覺へた柔術受身の術を心得て居るから、今しも鬼面山が突て來た鐵砲を美事に受流した、痛みも感んじなければ〳〵體も動かない、却て梁川が猛烈に突掛た者だから、流石の鬼面山受切れないで、ロ〳〵と跡へ下つた、馬五郎是は尋常では及ばんと思たから、兩の拳を固めると胸先を望んで突いて掛る、錯く相撲の手に四十八手の裏表新手を加へて百と何手なぞと云が、彼は誤りだ、四十八手より他に裏は違はない者です、突き手も手を開いて突いて行けば表だから差支はないが、拳を握固めて突けば裏になるから逆手になるのだ、庄八早くも此容子を見て大に驚いた、此拳固で突かれ〳〵ば金鐵がおやあない胸元が碎ける、突いて來るを體をなして、流るゝ拳を丁と握つて大音聲　庄「ヤア汝は相撲取でありながら、拳を固めて柔術の逆手を用ゆるとは何事なるぞ逆手ならば乃公の尤も得意とする事だ覺悟しれれ」と呼びながら「エーイ」と一聲氣合が掛つたと思ふと、鬼面山を肩に擔いで、眞據遊の岩石碎きの術、役柱と云ふ乾の方の黑布を卷た柱を目掛けて、ヤッと打付けた、四本柱もグラ〳〵と搖動く、打付けられた反動で土俵の眞中へドンーと胸を突いて倒れる、餘程强く打付られて胸を突たと見へて其處へ血を吐いてウームと呻いて氣を失つた　甲「ソーレ鬼面山が投殺された宜い氣味だ」と見物人は悦び勇んで鯨波を擧げる、代官森本甚太夫此容子を見て火のやうになつて怒つた　甚「ヤア〳〵不埒なる浪人者、逆手を以て抱力士鬼面山を投殺したと有ては容赦はならぬ……ソレ木戸を打て浪人者を取逃すな……逃しては成らんぞ」代官手付の者は木戸を打つて了ふ、棧敷を立下りて甚太夫、與力手代等を召連れて土俵の所へ進んで來る、見物は浪人が今に逃るかと思て居るさ、逃る處か梁川庄八正國手早く衣類を着て袴を穿ち大小を帶し、土俵の眞中に悠然として突立て居る、處へ代官森本　甚「如何に浪人者其方が只今逆手を持て鬼面山を投殺したのは不屆千萬、速に引立參るから左樣心得、尋常に繩にかゝれ」と數團荒く怒鳴、與力手代の面々中には早くも繩を打たんとする威勢を示す、驚くかと思ふと平氣だ　庄「靜かにいたせ拙者は奥州仙臺浪士梁川庄八正國と申する者、如何にも只今逆手を持て鬼面山を投げたに違ない、併し其許は棧敷に在て…二手を判然と見分ける事が出來たか…や、此逆手は何方が先へ出せしか知つてであろう、抑そも突手と云者は平手を以て致すのが角力の法であろう、然るに彼れ鬼面山は拳を固めて我を突かんと致したるは、是れ畢竟拙者を殺さんとの考へ、夫故拙者も止を得ず行司に斷る如く逆手を用ゆる次第を鬼面山に申聞けて投げたのだ、夫が何と致した」



東京電報

▲大元帥陛下還御　大元帥陛下には本十六日久留米大本營御發輦の上御歸路御還幸の旨仰出さる

▲南京に激戰起らん　十六日々報公報によれば南京にては近日激戰行はるべし在留民の下ノ關、上海に避難するもの續々あり

▲袁の平和政策　其筋十七日着公報によれば袁世凱は平和政策の第一着手として各省の有望者を亂民鎭撫に任用せり

▲宮中觀菊御宴　十六日宮中に於ては觀菊の御宴を催され皇后陛下臨御あらせられ各宮殿下を始め文武官拜觀仰付けられたるもの一千余名なり

▲露國兵の増派　先に一百名の兵士を哈爾賓より南下せしめたる露國は更に滿洲より千五百名の兵士を北京に向け出發せしめたり

▲大島都督急遽歸任　歐州漫遊中の大島關東都督は此際長く外遊を許さゞるを以て途中より引返し本月廿三日西比亞鐵道經由旅順に歸任の筈

▲漢口官革兩軍勢力　漢口發上海經由十六日武筋着電に依れば十一日の戰爭後官軍の襲擊に遇ひて一時退却せる革命軍は其後軍政府を再び漢口に移したるが同軍政府部長孝感國道胆腔の敵に據れば革命軍は大部隊を漢口の一帶に伏兵し一擧して官軍を驅逐せんとす目下官軍の占領せる地點は鐵道線路外一帶に過ぎずと

▲漳州の獨立宣言　十四日上海發電によれば厦門の南方漳州は獨立を宣言し逃亡せる市民は匪徒の掠奪を恐れて騷擾を極め居れり

▲重慶方面の交戰　漢口發電報に依れば重慶に於ては去る八日叛兵と端方の引卒せる討伐軍と革命軍との間に絶ねず交戰しつゝあるも外人は無事なり

▲英艦鳳山に向ふ　十四日在漢口英國司令官發電によれば南昌より英艦ナイチンゲール號は鳳山に向へり

▲在漢口軍艦　十四日漢口各國司令官發電報に依れば英國艦隊司令官は英艦アルクスター號にて十三日朝九江を經て下江せり獨逸艦隊司令官は十四日朝獨艦ライプチヒを率ひ九江南京を經て上海に下江の筈十四日より本職は（川島）再び列國民留地護援軍隊の指揮を執る

▲東宮演習行啓　皇太子殿下には第四、第十六兩師團對抗演習御實觀の爲め十六日午前六時新橋發演習地に行啓あらせられたり

▲中央政府建設　清國革命軍司令官黎元洪は武昌に中央政府を建設し各地軍政府代表者等より大統領に推擧されたる旨十三日付を以て列國領事に通牒したり

▲山東獨立公報　在芝罘三浦領事代理發電山東巡撫孫寶琦は山東省の獨立を宣言し自から大都督となれりとの報當地英國領事館に達せり今夜米國運送船一隻來り水兵五十名を上陸せしめ何時機に依り巡洋艦を碇泊せしむる筈

▲米國政府宣言　米國政府は未だ袁世凱若くは革命軍と會見すべく又は揚子江流域を中立地帶と爲すの目的を以て何人をも交渉せしめたる事なしと宣言せり

▲摩洛哥問題　伯林發電に曰く獨逸帝國議會は滿場一致を以てモロッコ協約を豫算委員會に附託す

上海電報

▲動亂と獨艦隊　獨逸巡洋艦隊司令官海軍少將フオンフリンク氏は一兩日中上海に到着すべし

▲滿人を殺戮す　南京より來れる革軍は總督張勳が革命軍を殺戮せるを深く含む處あり其復讐の爲め鎭江城內を物色して滿洲人を探索し老幼男女を問はず見付次第殺戮しつゝあり

▲雲南の革命亂　雲南省にも叛亂起り騰越永昌大理府雲南府は革命軍の占領する處となれり道臺はビルマに逃竄せり

▲鎭江附近情報　上流より來れる清艦凡十二艦は乘組員を換へたる後白旗を揭げ南京よりせる第三十四聯隊は鎭江に向へり寺院官衙は兵士を以て滿たせり招商局小蒸汽船一隻は革命軍の爲に破壞せられたり鎭江內城の滿人街を視察するに家屋は皆空屋となり銃器散亂慘憺たる光景を呈し革命黨は道署衙門に本營を置き南京攻擊の準備中なり滿州婦人小兒凡そ十二名南京より鎭江に到着せるが皆殺害せられたり此に於て外國宣敎師は革命黨に警告を與へたり江蘇省北部宿遷は本日暴徒起り到る所掠奪盛にして恐慌を極む

南京特電

▲革命の指揮を待つ　南京に於ては革命軍指揮官の到着を待ちつゝあり

▲六安、四洲陷落　安徽省北部なる六安、泗州は革命軍之を占領せり

▲革軍の現金沒收　張勳が浦江に送れる現金は浦江停車場に於て革命軍の爲め沒收せられたり

▲南京陷落近し　城內の軍政は張勳の專斷に依つて行はれつゝあるも早晩革命黨に落つべきは一般に信ぜらるゝ所なり

▲鎭江の新軍叛す　鎭江に於ては新軍叛せり

▲砲聲南門外に起る　十三日午前二時頃南門外に於て砲聲起りたるが戰況不明なり

北京特電

▲清帝の廢立乎　北京朝廷は各省の代表者を北京に召集し時局の善後策を協議する筈なるが朝廷と革命黨の媾和は結局不成立に終り清帝は廢立せられ共和政府に革めらるべしと北京外人の多數は觀測し居れり

雜報

●寺內總督の消息　寺內總督は十五日三田尻に安着したる旨藤田副官より總督府に電報ありたるが總督は同地毛利公別邸に於て大元帥陛下の御還啓を御迎ひ申し上げたる上再び下關に出て十七日下關出發途中京都に一泊して東上すべしと云ふ

●市原總裁退任乎　朝鮮銀行總裁市原盛宏氏は近々退任すべしとの說あり而して右退任の理由として傳へらるゝところによれば近來氏の健康兎角に勝れざると鮮銀第一銀行間の引繼殘務恐く決了を見たるに因るものなりとの事なるも井は表面の理由にして實は監督長官たる山本藏相に對する氏の關係甚だ圓滿ならざる爲なり

●京城府廳の不拂　京城府廳にては本年四月以降出張廳員全部の出張旅費を支拂はず剩へ巳往年度の諸拂さへ其儘になしあるを以て吏員及び同廳關係者は非常の損害と迷惑とを蒙り居る由傳へらる

●京城清商の金融平靜　京城在留支那人の金融狀態に及ぼす影響如何に關し第十八銀行支配人の語る處に依れば當行の關する範圍內に就いて觀れば何等差したる影響を蒙らざるものゝ如し尤も當行に於ける支那人取引は一切貸出をなさず預金のみにて夫れも極めて少額に過ぎざる故にや動亂後と雖も格別預金の引出者もなし只在留支那人等が取引先たる朝鮮人商人に對し動亂後急に從來の延取引を中止し掛金の督促を嚴にする傾向あるは事實なりと

●支那織物と京城　南清地方動亂につき該地方を中心とする支那織物の輸出全然杜絕せりとの風說專らなることは既報の如くなるが今南大門通り共益社に就き其の眞偽如何を訊き得たる處に依れば清國絹織物の主要製織地は鎭江、蘇州、杭州、南京等にして當京城地方へ向けても右各地より輸出さるゝもの最も多く每年共益社のみにても二百五十萬圓乃至三百萬圓の輸入を試みつゝあるが本年は動亂の爲め輸入の最も繁盛期たる昨今に於てすら例年の約半數の輸入を見るのみなるは事實なるも決して全然輸入杜絕せり等のことはなく只朝鮮各地總輸入額の約十分の四を占むる鎭江及び蘇州より先般輸出を中止するの報に接したることありしに對し之に備ふる所ありしに三日前多少の絹織物を發送したりとの電報に接したる位なり要するに動亂各地を中心とする製織業者等は重に其地方の資產家なれば此際官軍或は革軍の軍資誅求を恐れ何れも休業しをるらしく從つて此後動亂にして永續せば益々輸入數を減ずるは免れざるべし又た上海地方の清國製織業者等は昨今當地に於ける朝鮮人織物商に對し全然取引を中止し從來の延取引代金を請求し來る有樣にて彼等は品の拂底に困難しをり唯僅に共益社の輸入品に依つて需要を充し居る有樣なり

●防腐劑使用禁止と移入清酒　內地に於ける飲食物防腐劑取締規則は去る三十六年九月內務省令第十號を以て發布され同規則中清酒貯藏に限りては七ケ年間サリチール酸を使用することを得と規定し更らに四十三年三月十六日內務省令第二號を以て向は四十九年九月迄同樣使用することを得と規定せり其の理由は本國に於ける清酒釀造方は未だ防腐劑なるサリチール酸を使用せずんば清酒を安全に貯藏するにあらざれば事能はざればなり然るに去る二日總督府令第百三十三號を以て衛生上有害物及有害物品取締規則を發布　清酒の貯藏其の他に關しては絕對に前記サリチール酸を使用することを得ずと規定せり即ち同則中第一條第二種に於て防腐劑と稱するは左に掲ぐる物質其他の化合物及之を含有するものを謂ふ

安息香酸、硼酸「クロール」酸「フルオール」水素「フオルムアルデヒッド」昇汞、亞硫酸「サリチール」酸「チモール」

と規定し更らに同則第四條に於て左に掲ぐる飲食物は之れを販賣し又は販賣の目的を以て製造貯藏若しくは陳列することを得ずとし同條第三項に防腐劑を含有するものと規定せり然るに日本內地に於ける清酒の多くは現に內務省の許せる如く防腐劑なるサリチール酸を使用し而かも同一の清酒を續々內地より移入して一般に販賣しをれるを以て該劑の使用禁止は內地清酒商に與ふる打擊少なからずとして東京、大阪の各商人は或は電報或は書面にて會議所又は酒商に向つて昨今頻りに右府令に付て照會し來るもの多しと云ふ

●豫算愈々終了　來年度豫算の編製は此程愈々終了し目下其總高の計算中なるが之れを本年度分の豫算四千八百四萬圓に比すれば約三百餘萬圓の增加にして總計五千二百餘萬圓なりと云ふ

●防腐劑と當局意見　清酒の貯藏に關し防腐劑サリチール酸使用に就ては立案の當時大に議論ありしものにして內地に於て許し居るものなれば近く何等かの名稱の下に當局に於て追則を發布するに至るべしと云ふ

最近に於ける滿洲（二）

時事新報特派員橫尾信一郎氏談

◎哈爾賓は御承知の如く純粹な露國の租借地であつて、現に露國に依つて經營されつゝあるのでありますが、街衢建築物其他總てに於て其の規模の宏大なことは實に驚くの外はないのであります、過去の大連即ち其の未だ露國の經營に屬した時代の大連を御存じの方には大概露國の經營振り如何といふことは御解りになることゝ思ふが、彼の大連南滿鐵道停車場の結構如何に壯麗を極むると雖も、哈爾賓に於ける東清鐵道停車場の夫れには到底比すべくもないのであります。◎哈爾賓停車場の建築は內部は格別の壯飾を施してなく只廣いと云ふだけであるものゝ、其のホーム內は自由に二頭立の馬車が往復しつゝあるのである、扨て哈爾賓に就いて特に話すべきことは、彼の○○○○○○○○○○○○伊藤公の記念銅像建設問題で、川上總領事の說に依ると哈爾賓が露國政府の租借地たる以上は、外國の租借地若しくは領土內に於て我が藤公の銅像を建設すると云ふは如何との問題も起り、且つは藤公遭難の現場たる停車場內の改札口を距る僅に十步、發着列車を距る廿步の現在瓦斯燈の建つて居るプラットホーム內の個處で、日常最も列車乘降客の群集する地點に當る爲めに到底記念銅像を建設する丈の餘地がないといふ理由で、銅像建設は之れを見合せプラットホームの窓と窓との間即ち側壁に高さ一、四四メートル橫〇、八メートルの藤公半身像浮彫の記念銅牌を作り、外に遭難當時公の足跡を印した〇、八エーカーの前に述べた地點を大理石を以て疊み永く公の記念たらしむる計畫に變じ、其の經費の如きも當初は日露兩國に於て支辨する筈だつたのが、後日露兩國人の共同經費と變じ、更に現在では三度變じて日本人丈けの經營となり、外國人からの寄附は受けても差支ないことゝなつて目下其の準備中ですが、總經費は一万圓內外で、露國側からの寄附金も可成りにあるさうです、記念牌の意匠其他は純日本式に依ることゝし東京の專門家の手に委ぬる筈で、只其の銅牌の額緣は停車場で寄附するさうであります◎哈爾賓在留の同胞は日露戰役前迄は僅に五百人に過ぎなかつたのが、現在は千餘人に上つて居ます、併し日本人で稍勢力を占めて居るのは三井位のもので、他は例の天草女軍だとは實に情ない次第です

●清國留學生の通過　清國の革命亂益々擴大となりたるにより清國日本留學生は其の歸途を朝鮮に取るもの多く現に十三日朝釜山入港の連絡船にては六名十四日同七名同港に上陸し直ちに當地を通過して奉天方面に赴くものを見受けられしが右は官費私費の學生より入變り居れば多分は漢人にして中には政府より召還されたるものもあるべしと

●京畿道の徵稅　京畿道廳に於ける今年度の歲入豫算は六十六萬六千餘圓にして今日迄の徵收成績は頗る良好なり因に直接稅なる地稅、戶稅、家屋稅は歲入の九割を占め總額六十一萬三千餘圓に達し一戶當り二圓八錢一人當四十四錢九厘なれば負擔過重の怨聲なく納稅觀念も進步し居れば徵收不能の如き極めて尠し

●水力實測隊の調査　既報の如く本月始めより通信局に於ける水力實測隊は各地に向け出發したるが一部は漢江の淮陽方面に他は晉州方面の洛東江等なりと云ふ

●仁川の電燈料引下　仁川電氣會社に於ては京城の例に鑑み遞て通信局に料金引下げ方認可出願中なりしが其筋に於ても之れを至當と認め今明日中右認可の指令を交附する筈なるが愈々認可の上は仁川も當地同樣に來る十二月一日より引下げを斷行する由なり

●滿洲莨賣行狀況　滿洲に於ける東亞莨會社の支店は營口、長春、鐵嶺、遼陽、吉林、大連等にあり口付よりも兩切れの賣行非常に良きが何分英米莨の勁敵を控ね居ることゝて餘程の奮闘を爲さゞるべからざるは言ふ迄もなきが年を追ふに從つて徐ろに壓倒しつゝあるの傾向を示せりといふ尙奉天に於ける岩谷氏の製造所を始め其の他四區の同業者あるも是等は至つて微々たるものなれば敢て論ずるに足らずとの事なり

●土地調査事務員養成　臨時土地調査局に於ては過日第三回事務員養成科生徒入所式を擧行したるが聞く所に依れば當初の出願者は各道に亙り總數千八百五十名以上なりしも內千六百名は學術及體格試驗に於て不合格となり二百五十名合格し假入學を許され總計前學期の不成績者にして無試驗假入學を許されたる者十名を合して二百六十名となれるが內末客月再試驗を行ひ落第者卅一名及び假入學中の退學出願者無屆缺席者九名を除きなば今回入所を許されたる生徒はすべて二百二十名なりと云ふ因に新入所生徒の道別人員を掲ぐれば京畿六十七名平南十五名黃海九名忠南二十八名全南十一名忠北八名慶北二十六名慶南十一名江原八名平北二十一名咸南十名全北四名咸北二名なりといふ

●李伯朴子の伺候　李完用伯及朴齊純子は十六日午前十一時昌德宮に伺候せる由

●明石總長の消息　大演習陪觀中なりし明石警務總長は十七日迄は貓崎に滯在夫れより東上本月下旬歸任すべしと

●秋山技師の後任　曩に依願免官となりたる秋山通信技師の後任は熊本通信管理局の高崎技師（六等）任命されたるが近々着任の筈なり

●關屋局長の歸任　忠清南道の學事視察のため出張したる關屋學務局長は十六日午後八時十分南大門着の列車にて歸任すべしと云ふ

●營口と日本人　…營口歸客談…

南清の動亂は今や延いて滿洲に及び營口、牛家屯等邊は不穩の狀態にあり日本居留地は萬一に備ふる爲め相當警戒を爲し居るが今先月上旬動亂の發生する二三日以前營口を出發して日本に歸り更に同地に趣くべく當地に立ち寄りたる歸來客に就て同地の狀態を聞くに同地には日本人三千六百人外人二百人あり日本人の多くは商人にして外人の多くは稅關吏商人なり日本居留地は新市街に一畫をなし自治機關として民團を有し京城のソレと些も異ならず又新聞は邦字新聞としては滿洲新報一あるのみなるも清國の新聞は盛京日報の外二新聞あり日本居留地の小學校は極めて完備し校舍の如き內地有數の都會のソレに比して些も遜色なし金融機關は日本より支店を出せるものは正金銀行一あるのみ他には露清銀行殖隆銀行外二銀行あり貨幣は正金銀行發行の鈔券及びチヤンチヤンにて其の時々の銀の相場に依りて高低あるは言ふ迄もなし而して日本の警備機關としては警察署及び約二百名許りの守備兵あるも而も一朝有事の際には約一里を隔てたる牛家屯に獨立守備隊あるを以て何のあたり憂ふべきものなし唯此の際恐るべきは例の馬賊等が名を大義名分に藉り動亂の虛に乘じて良家を脅かすにあり他は敢て意を煩ますに足らざるべしと云々

公人私人

▲坂口新圃（藤織監務課長）十五日巴城
▲神代逵次（辯護士）同山本へ

▲京城手形交換高▼

十一月	金高	枚數
十六日	一一九、七五一、一七〇	四七九

▲治外法權▼

支那の革命騷ぎで朝鮮は火が消へた樣になつた、一時世人の視聽を聳いた總督政治も今は閑人の話頭にされ上らぬ樣になつた▲されど支那は支那、朝鮮は朝鮮、幾ら支那に大騷ぎがあつても自家の足元なる朝鮮を忘れてはならぬ、早い話が幾ら袁世凱が成功したからとて我家米櫃のタシにはならぬ▲トウ云ふものゝ支那の革命は益々出でゝ益々奇だ、攝政王に向かつて例の伍廷芳などが共和政体に贊同しろなどと上奏せしところ益々奇だ▲伍廷芳と云へば彼れは米の富豪カアネギーに向かひ、今に淸國をして貴共和國の姉妹國にしてた目に掛けると云つてヤッたソウだが流石のカアネギーも之には腰を抜かした事であろう▲在京城の支那人は比較的下層の者等が多いので極めて平穩の樣だ、併し革命爆發以來彼等の間に遙かに斷髮者が殖ねたのは何の譯か▲鮮銀總裁市原の退任說が突如として傳つて來た、聞く彼れは非凡の辛抱人、其現在の地位を擲つ彼としてはヨクセキの事だ▲往年市原の日銀に在るや、彼れは謀叛黨に與みし、時の總裁山本の排斥に勉め、事成らずして同盟辭職をした▲彼れが排斥に勉めた山本こう、今の大藏大臣山本其人で、而かも鮮銀總裁の運命を左右する人だ、玆に到つて市原たるもの豈晏如たるを得んや▲一寸の虫にも五分のタマシヒ、市原が當年の敵たる山本の頤使に堪得ずとして退任を思立つのは男の意地だが、裏面を察すれば餘儀の事情もある、兎角浮世は儘ならぬものだ。

チャンピオン傳（三）

豫報一束（二）

雜貨屋小僧投

▲第五 旭町三丁目に茶呑みの先生たるチヨンガーがある僕が一寸圓の理くつ實に居て仲々豪くへからざる氣焔を吐いて居る、隨分股倍の先生で未だ曾て時計を持たぬ又店を見たることなく先生午前は何日なりや両より其の何日なりの箸時はできない、偶に來る人が何故時計を持たぬかと聞へば時計のカチ〳〵は壽命を縮める合圖で不吉だと云ふ此先生朝から晩迄一歩も外出せず香を焚き茶を呑むが仕事で一日數百杯幾千杯なるかを知らず現に角吸子を手離したることなき有様で曾て喫煙のチャンピオンたる某氏が口、煙草を離したることなきと好四個だ毎日一斤入りの罐を空虚にすると云ふに至つては驚かざるを得ない、此先生得体が一向分からぬが何んでも伜が印刷局へ勤めて相當の收入ある處から其方より餘程月々の仕送りもあるようだ、本年六十六歳とやら隨分昔時は東京邊で巾を聞かした事もあつたので老人中々理屈を捏ねる時事も讀すれば漢籍の講釋もする、此間の京城新報に小松霞南と申す人の寄書に「本總督意義」と題したる記事を見て小僧に聞いた、あの小松と云ふは一体何處の男であると、小僧も何處の御方でありますかしりませぬが、兎に角總督府の外交官で中々エライ方だそうですと答ふ、先生が世間を知らぬ事は此一言でも知れる、そこで老人は斯う言ふた、實はの—『本總督の意義』とあるから是れも朝鮮に於ける從前の統監とか副統監とか昨今の總督とか總監とか一向にその意義を知らぬから鳥渡讀んで見たのだ處がイヤハヤ埒もないことで何んだ祝詞文の中に本總督と書いたのは間違でないさか、あこ意義ではなくて文字の事だ當へ新聞社も隨分ツマウヌ垢を掻ひ出したものだが併し此祝文朗讀の現場に居たら一寸耳障りであつたらうと思はれる、夫れは議會などでも能くあることで大臣が演説中滿場洪笑と來ることがある併し之れは隨分滑稽なこともあるが多くは耳障りの好くない言葉で罵ひ議場罵るの記者が鑑定す

文字で翌日の新聞に書れて居る夫れは見るもあれの位の記事に就ても一々辨明せねばならぬ御上の御手數も勿体無い次第であるハヽアー。先生もコウして毎日茶を呑み香を焚て仙人染みた事を言つて居るならさら何にか一つ御始めになつては如何です第一京城新報のチャンピオンへ載せたいもので又云へば何とも言はず机上の赤罫紙に左の一絶を示して大分眠くなつてきたツイと立つて毛布を引被る

朝夕煙擁絶俗塵
清凉一掬茶中仙

●續五藝妓涙の内情（七）

▽人面獸心の堀内實

謝罪狀を差入れ改悛を誓ひたるに依ること

堀内は此程本紙に新なるべしと僞りたる事情は彼れ堀内實不在中お雇人山本孝太郎を以て本社に對し謝罪状を差入れたるに依ること、堀内は歸京後の行爲を觀るに一も改悛の情なきのみならず、却つて益々不埒の數々を重ぬるを以て本紙は斷然此を續稿すべきことに決したれば、堀内の代理なる山本孝太郎なる者が差入れたる謝罪状を發表して其非を鳴らさんとす

一札

十月三十日以後の貴紙に於て五藝妓涙の内情と題し連日拙者是迄の行爲に付き社會風紀保持の御立場より御尤なる諸貴を受け何とも恐縮仕候尚ほ抽者が品行上の事は拜察仕候へば尤分根據あることに御座候へども少の意外に驚く節も有之候拙者不德の致す處と深く恥入申候就ては從來の遺口を一變し將來永遠に謹愼仕る可き事を貴社に誓ひ茲に謹で謝罪の意を表し申候也

明治四十四年十一月七日

堀内實妻

堀内クニ印

京城新報社御中

縱分横着の書き振りはあれど從來の遺口を一變し將來永遠に謹愼すべしとの文句を信じ且つ雇人山本孝太郎が世間へ對し謝罪廣告等致す可くやとの相談に對しても記者は左る形式の事よりも妓輩を可愛がつて

遣つたら宜しかるべし此れ本紙が堀内の惡辣なるを摘發せる意志の存する所なれば好意ある忠告を與へしに彼れは深く其好意を感謝し一層つて背くことと無らしめんと目明したるに依り前掲謝罪状の掲記も記者に於て見合せ置きたるなり、爾して其際山本が語る所に依れば堀内は本記事の第一回が出たる夜實母危篤の電報に接し郷里へ歸りたれば當地には奥さん（彼れは堀内の妻くにの事を斯く呼ぶ）斗りにて途方に暮れ良人實の命を受け某々等にも相談したれども埒明かずック〳〵只今迄の非を悟り此所に陳謝するなり堀内歸京仕りても重々御恩に被る事なるべしと涙を流さん斗りにして引き取りたるなり然るに事實は如何、

篤の報に接したりと云ふは虚構

にして實は本記事の發表と同時に急遽東上したるは

抱妓等が父母を欺きて保護の委任

狀を受取

らんが爲めなりしなり奸奴堀内實等の鬼行亂倫悖德は次を逐ふて我照魔鏡裡に映じ來らん

●護讃輪で蕎麥食

▽三幸柏子の更科運ひ

去る十三日の午後十時半頃別府組の提灯點けた四臺の護謨輪の轅を列ねて旭町一丁目の蕎麥屋更科本店に乘り着けた男女四人の客がある、女の二人は誰が目にも夫れと知らるゝ藝妓姿、客の兩人は是又紛れもなき大商店の伴頭さん二階に登つて男二人は北向に窓を背負つて座を構れたるに對ひ合つた藝妓の年嵩の一人は大小霰の鼠縮緬の三所紋の黒羽織を背後に剝れた裏は羅珍か羽二重か白地に燃ゆる友禪模様白茶錦の帶にうつゝり好く銀杏返しに取り上げた頭髮の黒きに襟元の白さを自慢の拔衣紋、一人は未だ十七八の赤襟上り盤立縞の花召の袷釦いた裳に緋の湯文字鼻白き足袋の裏かけてつゝましげなる重ね足、一切商事親類交際の座蒲團も一様に御注文は蕎麥盛四ツ、正面切つて座つたる客の一人は時々本町の繪屋商店の店頭で見受け申す口許目許に云ひ知れぬ愛嬌ある身長の少し低け

れ顏色の淺黒い男らしい好男子、大郎た酒の廻つたらしい口吻、手振りた代りの來る間を浮世話し「何だせ蕎麥は東京に限るせ、大坂の奴等は蕎麥の味は知らねんだ、うどん斗り食つてやアがるんだ、麥粉で育つて居やがるんだから」二十七八の若い方とて藝妓に勢の好い所を見せ様と云ふ内心色氣澤山

●呉服店員の豪遊

▽費消金は店の貨物

過般來南部署に於て惡店員檢擧開始以來店員間の風儀も革まり各店主も漸く安心するを得つゝあるが猶某々二三商店員中にも身分不相應の遊興を爲すものあるより同署刑事長野、岸、佐藤の三刑事注意中の處八月三十日以降大和新地元祿樓の娼妓力彌ヶ敵妓に豪奢を極むる者あり現に去る十三日夜の如き見逃し難き豪遊なるより取調べたる處本町一丁目桑原呉服店員山口縣熊毛郡厚木村二百六十六番戸吉村孝助（二三）と答ぬたるより同行承諾を求め本署に引致取調しに最初は曖昧の申立を爲し居たるが遂に隱し切れず八月三十日より十一月十二日迄の間に於て商貨總外四十二點（代二百餘圓）を盜み出し賣却若しくは入質し何者掛代金數十圓を横領したる事を自白せしより目下取調中なりと一般商店主人は注意肝要なり

●龍山の大旋風

▽龍山小學校々舍倒壞

十五日午後四時頃龍山に一大旋風起り目下元町三丁目に建築中なる龍山小學校建築工事は其中心なりしと見ゆ過日上棟式を行ひたる同校舍の一部建坪百四坪を倒壞したるが雨天工事休止中なりし事とて幸に人畜の被害なかりしと

●開盛樓情死後聞

▽二人一緒に燒て呉れ

十四日午前四時頃龍山新地開盛樓に於て同樓抱娼妓開花事水野さく（二九）が馴染客なる猫谷金藏（三三）と十四日午前四時頃鹽酸ストリキニーネを服して情死したる事は既報の如くなるが其急報に接したる金藏の實

●宿屋荒し捕はる

十五日夕仁川仲町原金旅館にて宿泊料一圓六十錢を支拂はず逃走を企てたる者ありて同旅館にて取押へ直ちに警察署に訴へ出でたれば本署に引致取調へたる處初めは原籍神戸市榮町四丁目二百番地與吉の弟大塚與三郎（二三）と稱し居たるも實は千葉縣千葉町大川藤吉郎（二三）なる事判明し大連地方を荒し廻りたる後平安北道定州に至り定州旅館に於て同宿の鮮人所有の金五十圓を窃取し同處裁判所に於て懲役五ヶ月に處せられ三年間刑の執行猶豫を與へられし後開城を經て去十日頃京城に來り統明館に金澤喜太郎と稱し宿泊し同宿者の洋服及び靴等を窃取入質し翌日新龍山某旅館に宿泊し同宿者の金品を窃取せんとして果さず十五日仁川に至り敷島遊廓靑樓に登樓しはな子を敵娼に金二圓の散財をなし更に一仕事せんものと停車場附近の駄菓子屋に於て煙草の空箱二ヶを六錢に買求め風呂敷に包み荷物の如く裝へ原金旅館に宿泊し同宿舍の金品を窃取せんとして果さず其筋に引致さるゝに至りたるにて余罪目下嚴重取調中

只何某は急遽渡鮮し十七日午前京城民團役所に出頭し假埋葬されたる同人遺骸引取手續中係員に向ひ思ひ合ひたる愛情なれば望みに任せて二人一緒に火葬に附したしと願出たるも既に女の方は樓主に於て火葬に附したる後の事とて涙ながらに引取りたりと

●麥酒會社の落成宴

當地大日本ビール會社出張所に於ては南大門通り二丁目に新築中の煉瓦建二階建家屋落成して十五日午後五時より新築家屋階上に市中の各特約販賣人を招待し落成祝を兼ね懇親會を催したるが花月の勝利揮毫の江戸奴井門の政子松葉亭の八入清華亭の大助等酒間を周旋し來客の歡盡に入保田靑木室新内松浦辻屋の小島高德の踊り等ありて頗る盛會なりしと

●漁人の捲沒ひ 西小門外居住清國人丁右信（四〇）は十日午前十一時頃南部板井洞尹姓女（五〇）が明治町朝市場に於て野菜を買んとして傍らに金二十一圓餘入財布を置きたるを窃取し南部署に送られ檢事局に送られしが十六日京城區裁判所に於て公判開廷ありたり

●判決二件 明治町三丁目一一六番戸小林方山梨縣人加藤フジエ（十九）は窃盜及横領事件にて懲役三ヶ月▲忠淸南道靑陽郡西小覓中江里金昌淳（三五）は私印私書僞造行使詐欺取財犯にて懲役三年

●執行猶豫 慶尚南道慈賀郡岳津村字中間生岡部榮三郎（三五）の横領欺詐事件は懲役六月に處せられ二年間執行猶豫

●取消 左の如く申込ありしに付新聞紙規則に依り其全文を掲載す

貴社昨日發行京城新報第八百十八號第三面雜報欄掲載「親友の妻を囲」と題する記事中小生に關する件は事實相違の點有之迷惑不尠候に付此全文御掲載御取消相成度願上候明治四十四年十一月十五日京城初音町一丁目井岡廣一印京城新報社御中

○名數中學會講義錄の大光榮

從來發行せる中學講義錄の鮮界を根本的に刷新するを以て目的として生れたる名數中學會講義錄は創立日尚淺きにも拘はらず頗る江湖の希望に副ひ已に一萬二千人以上の申込を受付け猶續々入會者ある由なるが今回二條會長の手を經て畏くも皇太子同妃兩殿下の御覽に供し且つ畏れ多くも東宮内親王殿下、三皇孫殿下の御覽をも辱ふし且つ毎號引續き獻上の運びに立到れりとか蓋し講義錄にして此の如き大光榮を荷ふに至りしは同會を以て嚆矢とすべし

○名數中學會にては學術普及の一手段として本月五日午後東京市神田橋外和樂堂に於て第一回科外講演會を開き左記講師の講演あり聽衆六百餘名に及び近者稀に見る盛會なりしといふ

▲剛情なる猿場り（鑑谷壁堅）▲青年の自覺（伯爵柳原義光）▲天下の青年（代議士村松恒一郎）▲ダリヤとエロス（斯波貞吉）▲現代の青年（文學博士三宅雄次郎）

●演藝だより

▲壽座 千里眼三田光一一行の大奇術

▲歌舞伎座 吉田奈良男一座の浪花節

▲浪花館 既報三遊亭若遊三一行は愈々十八日初日開演と決定したり

▲御成座 十七日より革新浪花節新演劇ダイムス園の新派劇と云ふ新案物にて開場すと藝題は「武士的敎育」なりと

▲桃中軒雲右衛門 先頃當地浪花館に於て開演したる桃中軒雲柳は滿洲巡業の歸途目下鎭南浦に於て興行中の由なるが同地打揚後再び當地に乘込み歌舞伎座又は壽座の孰れかにて興行すべしと

廣告

京城鍾路所在一建物 四棟 此建坪五十參坪八合四勺一附屬門 壹ヶ所

右賣却ス買受希望者ハ十一月十七日以後ノ朝鮮總督府官報又ハ會計局營繕課ノ掲示ヲ看ルベシ

明治四十四年十一月十七日

朝鮮總督府

名教中學會講義錄

本會役員
會長 公爵 二條基弘
副會長 男爵 德川厚
評議員(いろは順)
公爵 岩倉具張
伯爵 渡邊千秋
子爵 渡邊國武
伯爵 田中光顯
伯爵 大木遠吉
侯爵 黑田長成
伯爵 柳原義光
伯爵 松浦厚
侯爵 久我通久
伯爵 土方久元
伯爵 東久世通禧
男爵 千家尊福

編輯所 東京府代々幡村 電話芝二〇八〇 名教中學會

本會講義錄は毎號
聖上
皇后兩陛下
皇太子
皇太子妃兩殿下
泰宮内親王殿下
迪宮
淳宮
光宮 三殿下の
御覽を辱ふするの大光榮を荷ふ

十月第一期講義 第二號發刊 入會申込順に依り全部發送濟
目下缺員あり何時にても入會を許す
◆無試驗入學 本會卒業生には部下三大學二專門學校へ無試驗入學の聯絡あり
◆會費分納法 今般會則を改正し特種の事情ある者に限りて毎月會費を分納する方法を設く
◆特典の延期 今回の御光榮に報ずる爲め本月中に入會するものに限り入會金を要せず其他種々の特典を與ふることゝせり
◆雜誌新時代 會員相互の機關雜誌「新時代」初號は愈々發刊して本誌の如何に完全なる雜誌たるかを見よ

規則書 …申込次第無料…

發行所 東京日本橋區今川橋際 株式會社 啓成社 電話本局二一〇〇番